

### 1. 3. 1 「音のことば」

1. 対象学年 2・3年生

2. 担当教員 加儀 修哉

#### 3. テーマのねらい

通常のコミュニケーションでは、次のような会話が当然のごとく行われている。

——「え、これ?」「そう、それだよ。」「え、あれのこと?」「そう、それぞれ!」——。具体的な物の名前や状況を説明せずに、アイコンタクトをはじめとする非言語の情報によってコミュニケーションが成り立つ。だが、それを音声だけで行おうとすると状況は大きく変わる。

本テーマでは、ラジオドラマなどの音声による作品づくりを通して、音と言葉で伝える魅力を探ることをねらいとした。シナリオを書いたり、演じたり、編集したりするという作品作りを通して、その魅力に気づかせたいと考える。

#### 4. 学習の計画

回	日程	学習内容
1	5/ 2	・「音のことば」とは? (テーマ内オリエンテーション)
2	6/ 1	・制作グループ決め ・ミニミニ作品 シナリオ (台本) づくり
3	6/ 8	・ミニミニ作品録音 (録音の方法・機材の扱い方) ・ミニミニ作品編集 (編集の方法・機材の扱い方)
4	6/ 22	・ミニミニ作品試聴
5	7/ 6	・シナリオづくり ・配役決め・練習
6	9/ 7	・練習
7	9/ 21	・音声作品録音
8	9/ 28	・音声作品編集
9	10/ 26	
10	11/ 7	
	11/ 8	テーマ研究発表会準備
	11/ 9	テーマ研究発表会
	11/ 30	テーマ研究まとめ・自己評価

#### 5 学習の概要

##### (1) 「音のことば」を知る段階

###### ① 音声作品を知る

まず初回のオリエンテーション時に、「日ごろ、ラジオを聞いているか?」尋ねたところ、

英語科の課題となっている語学番組以外はあまり聞かないという生徒が大半を占めた。そのため、様々な音声作品を知るところから学習をスタートさせた。具体的には、過去に放送されたラジオドラマ「青春アドベンチャー」（NHK）やFMの音楽番組、詩の群読や落語などを聴いてイメージを膨らませた。

## ②ミニミニ作品づくり（20秒）

その後4～6人でグループをつくり、まずは音声作品の作り方や機材の操作について知るために、20秒のミニ音声作品を作ることを課題とした。学校を舞台にしたラジオドラマの予告編を作る班や、音楽をテーマに座談会風に語る番組を作る班などが見られた。

制作には、各班に一台マルチトラック編集ソフトをインストールしたノートパソコンとマイクを用い、マイクの扱い方や基本的な録音・編集の方法について説明をした。生徒たちは、短い作品でも録音のし直しや、フレーム単位での編集作業に時間がかかることを実感していた。

## (2) 「音のこぼれ」を追求する段階 ～本作品づくり（5分）～

基本的な作品づくりについて分かった後、5分程度の本作品づくりに取り組んだ。ラジオドラマを作る班、音楽番組を作る班、お笑い番組を作る班に分かれた。

その後、シナリオを書くために図書館に向いて、小説などの物語の作品世界や、脚本づくりのための本（『ラジオドラマ脚本入門』北阪昌人 映人社 2015）などを参考にしながらシナリオづくりに取り組んだ。講座3回分（1講座100分）をシナリオづくりの目安としていたが、作品の設定や人物の設定に悩み、大幅に時間を費やした班もあった。

シナリオ完成後は、放送室などを交代で用いて録音を行い、パソコンで編集を行った。その際に、黒板にチョークで書く音や廊下を歩く音など、効果音の録音も自分達で行った。以下、完成した作品の冒頭とあらすじである。



テーマ研究発表会の様子

「はい静かに。今日は竹取物語をやるぞ。資料集〇〇ページを開け……。」  
竹取物語を読んでいるうちに主人公が作品の中へタイムスリップ——。（作品名「竹取物語」）

「4月の空。地面には、沢山の花びらが無残にも散っていた——。」  
学校生活に悩む主人公の葛藤を描いた青春ストーリー。（作品名「償い」）

## 6 成果と課題

- 音と言葉で伝える面白さやその魅力を、最後の振り返りで述べている生徒が多かったことから、音声言語の魅力に触れさせることができた。
- 作品の完成までに多くの時間を費やした。効果音にこだわるなど力を入れる一方で、を完成させることが大きな目標となったため、作品内で用いる言葉の選択や効果の指導に課題が残った。
- 個室での録音作業となったために、グループ内で盛り上がり作品づくりが完結してしまう様子も見られた。具体的なシナリオや役作りのアドバイスのあり方を今後に活かしたい。